

平成24年度教育研究活動報告書

氏 名	藤沢 毅	所 属	芸術文化学部 日本文学科
学 位	文学修士	職 位	教授
専門分野	日本近世文学		
I 教育活動			
本年度担当科目			
学 部	日本文学史Ⅳ（近世）、日本文学講読Ⅳ（近世）、日本文学講義Ⅱ（近世）、近世文学専門演習 a、近世文学専門演習 b、卒業論文（構想・準備）、卒業論文（制作）、文芸創作入門Ⅱ（2/15）		
大学院	日本古典文学特講、日本古典文学演習		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
（1）〈著書〉『新局玉石童子訓』 [上] [下]（共著、2000年2月・5月、国書刊行会）			
（2）〈論文〉「『月都大内鏡』の出版」（単著、1997年10月、『国語国文』）			
（3）〈論文〉「近世中期成立通俗軍書の相互関係—立耳軒作品と『太閤真蹟記』『真田三代記』」（単著、1999年12月、『鯉城往来』2）			
（4）〈論文〉「『浪華侠夫伝』序論—後修本からの考察と「水滸伝」臭」（単著、2003年6月、『読本研究新集』第四集）			

(5) 〈論文〉「実録『大岡政談』とミステリー」(単著、2005年10月、『日本文学』54-10)

本年度を含む過去5年間の研究業績

(1) 〈論文〉「『審訓清正実記』における家臣拵拾譚」(単著、2008年12月、『鯉城往来』11)

(2) 〈著書〉『翻刻「[犬猫/怪話] 竹篋太郎」』(共著・編集、2009年3月、尾道大学)

(3) 〈著書〉『翻刻「[復讐/奇談] 幸物語」』(編集、2009年3月、尾道大学)

(4) 〈論文〉「翻刻『審訓清正実記』(一)」(単著、2009年3月、『尾道大学芸術文化学部紀要』8)

(5) 〈著書〉『日本のことばと文化—日本と中国の日本文化研究の接点—』(共著、2009年10月、溪水社)

(6) 〈論文〉「『竹篋太郎』の失敗」(単著、2009年12月、『鯉城往来』12)

(7) 〈著書〉『八戸市立図書館所蔵南部家旧蔵本 実録解題』(共著、2010年2月、国文学研究資料館)

(8) 〈著書〉『尾道大学附属図書館 下垣内文庫目録』(共著、2010年3月、尾道大学)

(9) 〈論文〉「翻刻『審訓清正実記』(二)」(単著、2010年3月、『尾道大学芸術文化学部紀要』9)

(10) 〈論文〉「栗杖亭鬼卯作『浪華侠夫伝』一枠組みと反体制としての「水滸伝」」(単著、2010年、3月、『あじあ遊学』131、勉誠出版)

(11) 〈論文〉「光秀の喜怒骨、重幸の剣難相—立耳軒作『石山軍鑑』における枠組—」(単著、2010年12月、『鯉城往来』13)

(12) 〈論文〉「翻刻『審訓清正実記』(三)」(单著、2011年3月、『尾道大学芸術文化学部紀要』10)

(13) 〈著書〉『翻刻「夕霧書替文章」』(編集、2011年3月、尾道大学)

(14) 〈論文〉「『新編かげろふの巻』論」(单著、2011年12月、『鯉城往来』14)

(15) 〈論文〉「翻刻『審訓清正実記』(四)」(单著、2012年3月、『尾道大学芸術文化学部紀要』11)

(16) 〈著書〉『翻刻「小説東都紫」』(共著・編集、2012年3月、尾道大学)

(17) 〈著書〉『翻刻「[蛭ノ狩] 宇治奇聞」』(共著・編集、2012年、3月、尾道大学)

(18) 〈論文〉「真田幸村は何度死ぬ—『厭蝕太平楽記』における構成意識—」(单著、2012年12月、『鯉城往来』15)

(19) 〈論文〉「和本リテラシー教育の実践」(单著、2013年1月、『日本文学』)

(20) 〈著書〉『近世実録翻刻集』(共著、2013年2月、近世実録翻刻集刊行会、担当箇所は「『厭蝕太平楽記』」)

(21) 〈論文〉「高垣眸作品研究序説」(单著、2013年3月、『尾道市立大学地域総合センター叢書』6)

(22) 〈論文〉「高垣眸作品を読む(一)—『怪奇黒猫組』」(单著、2013年3月、『尾道市立大学文学談話会会報』3)

(23) 〈論文〉「高垣眸作品を読む(二)—『新版大岡裁き 謎の花簪』」(单著、2013年3月、『尾道市立大学文学談話会会報』3)

(24) 〈論文〉「翻刻『山本勲功記敵討』」(単著、2013年3月、『尾道市立大学芸術文化学部紀要』11)

(25) 〈著書〉『下垣内先生を偲んで一下垣内和人先生追悼文集』(共著・責任編集、2013年3月、尾道市立大学芸術文化学部日本文学科)

現在の研究テーマ(3つまで)

(1) 立耳軒作通俗軍書の評価と文学史的位置付け

(2) いわゆる「二流読本」の再評価

(3) (地域貢献の一環として) 高垣眸作品の基礎的研究

研究テーマの
進捗状況

(1) 立耳軒作品と関係の深い通俗軍書『厭蝕太平楽記』の翻刻を終了し、公開した。また、立耳軒作『山本真田勲功記』の抄出本の翻刻をなし、公開した。次は抄出本と完全な形のものとの比較検討を考えている。(2)については、西日本近世小説研究会の活動(科研採択済件を含む)と平行しながら行っている。また、学生達といわゆる「二流読本」の翻刻を進めている。(3)については、『地域総合センター叢書』で序論を、また『文学談話会会報』で作品を読むという文章を載せている(継続)。

学会、所属団体における活動

所属学会・所属団体 役職等

日本近世文学会、上智大学国文学会、広島文教女子大学国文学会、尾道大学日本文学会
広島近世文学研究会、西日本近世小説研究会